

認知症と さいごまで 自分を大好きでいること

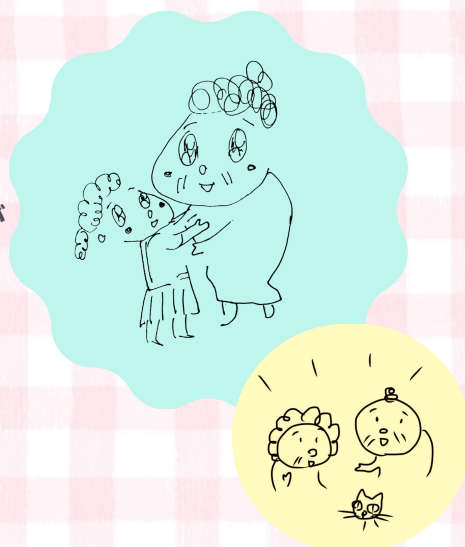
認知症と看取りの専門施設「花の家」からのお便り

誰が汚したんや
わたしやない...



日々、できることが減っていき...
やさしい人たちによる
排泄介助、食事介助、お風呂の介助で
やってもらうことはじわじわと増えていく。
楽しい時間もあるけれど
終わりの見えない孤独と不安の夜がこわい。

私は私
生命は必ず終わるけれど
穏やかな木々や人の暮らしの気配の中で
こどもたちが未来に向かって響かせる笑い声が
聴こえてきたら
私の人生も、自分にできることをしてきた
それでじゅうぶんよかったなって
天国の待合室はそんなふうがいいなって
思うのです。
みなさんはいかがですか。



本人にできる生活を寿命の軸にする 「脱・延命介護」の苦痛緩和ケア・医療

★希望する人と、周りの人たちへ 花の家からの提案★
健康に気をつけてきても、認知症や要介護状態になったら

①「自立・健康」を基準にしない

高齢者の認知症、体力低下によるケガや病気は寿命のサイン。
生命あるもの、長く生きれば必ず訪れる脳とからだの限界を「異常」と
すると、過剰な延命の入り口に。

②生命活動を補う・代替する目的で手を出さない

一度肩代わりすると本人も望まない延命コースに。もう本人にとっての
限界なんだ。それを操ろうとしてはいけない、と考えて、本人がとじる
生を最小のケアで見守る。皮膚や口腔内の不快な汚染・かぶれ予防の清
潔ケア中心に。飲食は用意しても本人が食べられないなら、定時・定量
全介助ではなく癒し・楽しみとして一口入れてあげる程度、を基準に。

③楽に、癒しと楽しみをさいごまであきらめないための 環境と道具を少し先回りして整える

本人が使いやすい便利道具で、生活は人力より、物と環境依存に。
「楽」を先回りしつつ無理に切り替えなくていい。本人に選んでもら
う。自然や人の気配、ふれあいを最期までできる範囲で取り入れて。

④痛みや苦しさは、根本治療や予防ではなく その時々ができる範囲で取り除きながら見守る

体がもう限界で起こっている各部位の変化を一つずつ治そうとしても
基礎体力や回復力がなく逆に苦痛を長引かせることも。
医療も介護サービスも「使えるから」「他の部分は元気だから」「なんと
なくやらないと怖い」で導入せず苦痛緩和のみに。
「持続・定時・定量」ではなく、段階と訴えや表情に対するケアを。

⑤本人と関わる人たちがいつも思いと考えを伝え合う

専門職は「自分なら」「自分の親なら」の視点を本人やご家族の意思の尊重
とともにあわせもつことで極端なサービスマシンと化さない

揺れて変わるのも自然なこと。一度決めても何度でも見直せばいい。
今日からこのメッセージを使って意見交換、すこしずつ始めましょう★

わたしたちは30年以上、認知症がある方を最期までケアしてきた京都市百万遍のそばにある老人ホーム「花の家」です。

認知症や慢性疾患、筋力低下など身体の老衰のサインが出て「本人の限界」を超えてからもなお、手厚いケアで生活を支えると、苦痛緩和の最小限の医療でも、何年間も長い期間をかけて本当にじわじわと最期へ向かう方が多いです。

しかしわたしたちはこれからはその超重量級の役目をおろして

本人がしめくくる最期を見守る

「花の庭」へと進化していきます。

医療だけでなく介護も延命につながっている面がある。延命よりも、苦痛緩和のためのケアこそを望む方やそのご家族とともに、今の「手厚いほどいい」常識とはちがった尊厳ある最期の環境をつくっていきます。

★「生かされ続ける本人の苦痛」をみんなで考えるとき

「切り捨て」との批難を恐れるあまり、行き過ぎた「延命文化」の陰で「ないこと」にされている他人が生活動作を肩代わりして長らえることの、本人の苦痛。

おむつ交換やお風呂介助時、暴言や暴力をともなう拒否で表現する人たちもいます。介護現場にはいつもそんな危機があり、介護職は自分のスキル不足を責めます。

高齢・老衰で要介護状態になり

自分ではもう食事をしっかり噛めず、トイレに行く力がなくなってから、最期を迎えるまでの時間を、終わりが見えないほど何年間も

他人の肩代わりによって引き延ばしてもらいたいと本当にだれもが望んでいるのでしょうか。



★「国民子育て保険」！はないけど・・・

こどもには、家族の状況に関係なく、家事やおむつ交換を一割負担でもらえる国民保険などありません。

2024年悲願の末に改正された保育園の配置基準は、それでも4歳児25人に保育士一人、これは先進国の中で最低レベルです。

高齢者のケガや病気、その先に最期を迎えることも、こどもが生まれて育つのも同じ「自然な発達過程」なのに高齢者の老衰や死は「あってはならないこと」として治療や介護で手当し、先延ばしし続けるしくみが

「少子化」の次の段階「少親化（親になる世代の人口減少）」に突入した日本で、持続可能なはずがありません。



年老いて最期に向かう時期

みなさんはどう過ごしたいですか。

たくさんの方の終末期をみてきて、そしてとことん、きめ細かいケアと緩和医療を追求してきて、今ようやくわたしたちは

幸せな最期は、生活動作をすばらしいケアで肩代わりされてじわじわとひきのばされることなくこどもたちの笑い声に未来と希望を感じながら自分の人生に誇りをもってバトンを渡せることなんだろうなと思うのです。



花の家→花の庭計画 日本いのちの花協会